

木津川市教育委員会会議録

令和2年第10回木津川市教育委員会定例会

- 日 時：令和2年11月5日（木） 午前9時30分から午前10時34分まで
- 場 所：木津川市役所 4階 会議室4-3・4-4
- 出席者：森永重治教育長、有賀やよい委員、小松信夫委員、高橋史代委員、佐脇貞憲委員
（事務局）竹本教育部長、遠藤理事、志賀理事、木下学校教育課長

傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

〈傍聴者入室〉

1. 開 会 教育長
教育長あいさつ
2. 前回会議録の承認
委員から異議なく承認された。
3. 教育長報告（令和2年10月9日～令和2年11月5日）
教育長が、事業報告に基づき報告を行った。中でも次の点について、説明があった。
 - ・10月9日 京都府人権教育研究大会が開催された。
 - ・10月13日 いじめ防止等対策委員会を行った。
 - ・10月14日 京都府へ要望を行った。
 - ・10月20日 木津川市通学路安全推進会議を行った。
 - ・10月24日 山城地方中学校駅伝大会が開催された。
 - ・11月2日 相楽地方通級指導教室運営協議会を行った。
4. その他
 - (1) 今後の行事予定
事務局が、今後の行事予定について説明を行った。
 - (2) 木津川市立小中学校の在り方検討について、事務局が資料に基づき説明を行った。
〔説明〕
第7回教育委員会定例会にて、木津川市立小中学校の今後の児童、生徒数の推移を示し、

令和7年度までの推計値から、多くの学校で減少傾向にあると説明した。この状況を受けて、将来の木津川市の教育環境をどのように整えていくかという観点から、学校の在り方について検討していく。

木津川市は人口が増加している数少ない自治体であるが、増加傾向にある木津地域に対し、加茂地域・山城地域においては減少傾向にある。人口が増加している木津地域においても、城山台地区では平成27年度のまちびらき以降、大幅に人口が増えている一方で、西部の住宅開発地区では人口増加のピークを過ぎていると考えられる地域もある。このような中で、市の総合計画では令和15年の約80,000人を人口のピークとして減少に転じると見込まれている。市の年少人口についても減少が見込まれ、一部の小・中学校においては、既に児童、生徒数、学級数が減少し、この傾向は今後更に進行していくとみられる。

令和2年5月1日の学校ごとの児童、生徒数及び学級数、また令和7年度の推計値との比較について説明する。ほとんどの学校で児童、生徒数及び学級数の減少を確認し、増加が見られるのは城山台小学校と、その進学先である木津中学校及び木津南中学校のみで、相楽台小学校については横ばい傾向と見込んでいる。

各学校の学級数について、小学校は35人学級、中学校は40人学級として、普通学級数の推計を行った。令和7年度の推計値では、文部科学省が標準規模としている12～18学級を下回る学校が増加し、小学校では単学級の増加、1学年が20人を下回る状況も見込まれる。

このような児童生徒数、学級数の減少の状況を踏まえ、児童生徒にとって良好で、安心・安全な教育環境を整えること、教職員の指導体制の充実、また円滑な学校運営のための学校規模、学校配置について、木津川市立小中学校の在り方の検討を進めることを考えている。ただし、現時点において、城山台小学校、木津中学校及び木津南中学校では、当面の間、増加していくこととなるため、この3校については個別対応を継続していく。

今後の学校の在り方を検討するにあたり、基本方針・基本計画などの策定が必要となると考えるが、児童・生徒数の推移と今後の推計を踏まえ、教育活動の内容やそれぞれの特徴や利点、課題など、木津川市における学校配置や運営における考え方、それぞれの地域における実情を踏まえた可能性について、市全体の視点からまとめていくものと考えている。次の段階として、基本的な考え方を踏まえ、中学校区ごとに実施計画の検討を進める案を考えている。また、これらの方針・計画を策定するにあたっては、専門分野の方、地域の方の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

【質疑応答】

委員：小学校で児童の減少が著しく、中学校も令和7年度をピークに生徒が減っていくのか。

事務局：木津川市の総合計画や、政府の人口推計等を確認したところ、今後数年がピークで減っていくと見込まれ、小学生の人数に伴って、中学生も減少していく

と考えている。

- 委員：1校100人を下回る学校も増えてくると見える。
- 事務局：令和7年度の学級数の推計において、令和2年度の学級数と比べて、1学年が20人を下回る学校があり、単学級が増えていることが窺える。
- 教育長：各校の児童・生徒数の現在とピーク時とを比較することはできるか。
- 事務局：その点も考慮して分析を行っていく。
- 教育長：木津川台では児童数が大きく減少している。相楽台小学校はもともと児童数が少なかったが、駅前に大規模マンションが建設された影響があるのか、児童数は横ばいとなっている。

会議の途中で傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

- 教育長：文部科学省では、教科担任制を進めていこうとしている。中学校では、生徒指導体制が整えられているが、小学校では、高学年の指導に適した教員を配置して対応している。小学校から中学校への接続の面で、生徒指導の面、学力の面などを含めた検討も必要となってくると考える。
- 委員：学級数の減少に伴って、教職員数も減少していくことが考えられる。現在、教務担当と学級担任を兼ねている教員がいる例もあり、十分な教員を配属できる体制を検討していただきたい。
- 教育長：兼任の教務主任の要件は。
- 事務局：1校6学級以下になると教務主任と担任を兼務することとなる。法に基づき定数配置される。
- 委員：兼務教員は業務多忙と見えるので、対応を検討していただきたい。
- 事務局：現在も加配教員を配置し、業務の軽減を図っている。
- 委員：児童・生徒数や学級数の減少は、他市町村でも同じような状況かと思うが、定数改善の検討や、府独自の対応はないか。
- 教育長：木津川市は児童・生徒が減少している状況であるが、一定の人数を保っている。南丹以北の地域となれば、ほとんどの地域で教務担任制が想定され、全国でもこの傾向は存在する。京都府は全学年で35人学級制をとっているので、教務専任の配置は難しいと考えられる。また、特別支援学級への教員配置も増加しており、全てに手厚く対応していくことは困難であると考ええる。
- 委員：状況は理解しているが、要望等、働きかけをお願いしたい。
- 教育長：単学級の問題点も把握している。
- 委員：京都府北部では、単学級は増えている。
- 教育長：京都市内や亀岡市の一部では小・中一貫校といった対策が見られる。様々な

策を検討していく必要がある。

委員：恭仁小学校は複式学級か。

事務局：来年度は複式学級の予定はない。

委員：中学校も単学級になると、9年間、同じ人間関係が継続することとなり、単学級特有の問題も懸念される。

教育長：この件について、学校の在り方の検討を進めることとしたい。今後も引き続きご意見をいただきたい。

(3) その他

①城山台小学校学校選択制の申請状況等について、事務局が報告を行った。

〔説明〕

10月の1か月間の申請期間を経て、16名の児童が申請した。申請者の令和3年度における学年の内訳は、1年生が9名、2年生が3名、3年生が1名、4年生が3名であった。そのうち、1名について取り下げの申し出があり、1年生が8名となり、全15名の児童の申請があった。対象希望校は7校である。

今後のスケジュールについて、11月中に希望校と調整して、管理職の先生と面談を行う。既に面談を済ませている家庭もある。11月中は取り下げ可能としている。

いずれの学校も、受け入れ人数の上限には達しておらず、今回の募集に関しての抽選は行わない。12月初旬に就学先の学校を決定し、承認通知を対象児童に送付する。

続いて、城山台小学校の学舎名称が決定したので報告する。現在、新学舎を建設中で、来年度から予定通り供用を開始する。現在の校舎、本学舎の通称名が「よつば学舎」に決定した。よつば学舎は、1年、4年、5年、6年の4学年が使用するため、四つの学年が集う学舎として、逆境を乗り越えて、双葉や三葉が四葉に育つように、何事にも努力し、健やかに成長して欲しいという願いを込めている。新学舎は「ふたば学舎」に決定した。ふたば学舎は、2年、3年が使用するということで、二つの学年が集う学舎であり、種から芽を出すように、明るい未来への希望をもって成長して欲しいという願いを込めている。名称については、城山台小学校の教職員から募集し、教職員の中で、来年度からどんな学校に、何を重視していきたいかのビジョンを共有する中で決定した。

②最近の主な新聞記事について、教育長が説明を行った。

(4) 次回教育委員会は、令和2年11月26日（木）午前9時30分から、山城総合文化センター（アスパアやましろ）研修室及び視聴覚室にて開催することを確認した。

教育長が、会議を閉会した。